

## 第4回いわて復興ウォッチャー調査 自由記載集

### I 被災者の生活の回復に関する実感

生活の回復度及び3ヶ月間の進捗状況についての回答区分により、自由記載欄の記載内容を取りまとめると以下のとおりであった。

区分	職業・所属等	年齢別	地域	自由記載（理由）
回復した	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸北部	個人的に住宅を新築する人達が出てきていましたし、高齢者とか一人暮らしの方とかも外に引越をしている状況である。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸北部	元々民家の被災がないから生活そのものは全く変わらないと思う。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸北部	県南沿岸部ではまだまだ進まないことも多々あるように思いますが、私の周りでは着実に生活も回復してきているのではないかと考えています。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸北部	漁業関係は不漁ということもあり、やや心配ではある。ただ、施設等を見ると元に戻っているため、回復は進んでいるようにかたち上は見える。
やや回復した	地域団体・郵便局関連	20歳代	沿岸南部	生活はだいぶ回復してきたと思います。店もだいぶできてきて住む場所も増えてきました。雇用の方はだいぶ回復してきたと思います。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸北部	漁業がアワビなどの漁ができた。住宅を建てる土地の整備が徐々にできている。住宅を建てる人も増えてきているように感じる。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸北部	雇用対策が進んでいる。（復旧工事雇用含む）
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	買物をするには全く困らない状況になったと思います。周りを見ても、自宅がある人に関しては不満を耳にすることも減っています。仮設に住む人達には自ら再建に取り組んでいる人達を多く見られる反面、自治体の土地関係の進みが鈍いケースではほぼ前に進めていないと感じています。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	仮設住宅を出て新しく建てた家に移る人が多くなってきたと感じる。新しく家を建て退去する方、そのまま仮設にとどまる方の格差のようなものが生まれているようだ。家にとどまることを隠して退去する方の話をよく耳にする。また、まだ就職活動をしようという気になれない方も多そうだ。家もどうなるの？どこに住めるの？という先の不安を早く解消できるように具体的なまちづくりを示していくべきだと感じる。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	震災から1年8ヶ月が経過し、2年が過ぎようとしていて、皆今の生活に慣れたように仮設住宅で暮らしているように感じる。
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸南部	落ち着きを取り戻してはいるが、経済的にはまだ時間が必要と思われる。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸北部	徐々に農作物や以前のような趣味に打ち込む姿が見られるようになった。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	仮設の住民の方々も少しずつ前向きに先のことを考えて行動を起こしているようです。

やや回復した	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	入居者89世帯中5世帯が高台移転を完了している。現在2世帯が高台移転に向けて工事中。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	仮設住宅入居者の自力再建が若干あった。建設業でのガレキ処理等への雇用ではあるが、震災前よりは雇用はあるように感じる。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	移動販売車が来ると買物をする人が以前から見ると多くなっている。以前は見られなかったが、近所の仮設商店に何人かのグループを組んで出かける様子が見られるようになった。
	地域団体・郵便局関連	70歳代	沿岸南部	仮設住民の老人達の顔が穏やかになった。
	地域団体・郵便局関連	70歳代	沿岸南部	毎月毎日の食生活での買物が多くなった。
	地域団体・郵便局関連	70歳代	沿岸南部	仮設住宅は、風除室の増設、風呂の追い炊き改善、物置庫の設置等、住環境が改善されてきている。しかし、豪雨の後には、増設の風除室天井から雨漏り等がある世帯もある。隣同士の騒音も聞こえる。終末処理場は時折臭気を放つ。居室が狭く窮屈等々、団地内仮設住宅の住み心地は決して快適なものではない。不平不満をあげればきりが無いが、住まわせて貰っていることに感謝の気持ちをもてば不自由を不自由と思わなくなる。不自由な中で、我が団地住民のコミュニティ活動（自治会活動）が定着し、隣人愛や互助精神が醸成されているようである。被災者の生活の回復度は、なんととっても「家がほしい」これが解決されることこそ、回復度に繋がることと思う。こうした中で自宅再建が1世帯あり転居したことは喜ばしい。土地があっても浸水被害地区なので、家が建てられない。高台移転が決まった地区もあるが、我が仮設団地内は未だ決まっていない。
	産業・経済・雇用関連	30歳代	沿岸南部	震災で家を流された方が何人か家を新築したため。海岸に行く道路もだいぶ舗装された。
	産業・経済・雇用関連	30歳代	沿岸南部	徐々に住宅の新築や土地の確保に動く人も増えてきてはいるが、ほとんどの人が仮設で暮らしている。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸北部	住宅の再建には、まだ相当の時間を要すると思われるが、日常生活では通常通りになってきているように感じます。お祭りや例年の行事等もいつもどおり行われている。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸北部	浜仕事が少しずつ増えてきたから。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸北部	被害が比較的いや、かなり少ないこの地域でも漁業施設は津波でかなり流されたが、かなりの新しい施設が建築された。この施設がいつから動くかは知らない。多額のお金で建築された施設なのだからきちんと稼動してくれればいいですが・・・。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	仮設住宅で、あるいは引っ越した先で、ひとまず生活が軌道に乗ってきているのだと思っています。買い物に行ってもたくさんの方を見ます。住宅メーカーがどんどん事務所を出していますし、移転先がはっきり決まってくれば住宅を建てる方々も増えてくることでしょう。
産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	漁業の方も忙しく仕事をしている。そんなに儲けていないけれど前へ進んでいるのでやや進んでいると思う。	
産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸北部	被災者は限定的であるが、雇用環境も改善しており生活は回復しているものと思われる。	

やや回復した	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸北部	仮設から独立している方が多くなってきているが、未だ仮設に残る人がいる。高台移転、集団移転が進んでいるようであり土地の整備をしている。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸北部	水産加工業者の再開により、雇用も戻りつつある。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	被災者の中でも自己資金に余裕のある人の住宅建設需要が次第に増加してきている。雇用では秋刀魚の盛漁期となり、水産加工業の人手不足が見られる。建設業では、自力で県外業者と提携して人員確保に動き出す業者もあり、雇用のミスマッチは続いている。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	スーパーや地元文具店が開店した。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	自宅を新築する等して仮設を出て行く方が増えてきた。事業所の再建等で雇用も回復してきているが、異業種への転職や期限付雇用等、将来の不安を持ちながら働いている方も多いと思う。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	私はアパート住いですが周りに明るさを感じる。（子どもが外で大声を出し遊んでいる。主婦、若い方々、中年は夕方特に運動している。挨拶も多くなってきました。）住宅（新築）、アパート住宅が増えてきました。行政の担当者は以前より被災に対する対応がよくなりました。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	高台移転の具体的説明もない事から、自ら土地購入による地区外への移転者が多くなってきている。仕事の転職や建設業による収入が安定してきている人が徐々に多くなっていく。
	産業・経済・雇用関連	60歳代	沿岸南部	現在の生活は落ち着いているが、将来を考えた場合不安である。資金面で住宅、建築が難しく、ずっとこのまま仮設住宅に住み続けたいと言っている被災者もいる。
	産業・経済・雇用関連	60歳代	沿岸南部	街や地域のイベント等に多くの人が集まって賑やか。住宅の新築も目に付く。（僅か一部の人かもしれないが）
	産業・経済・雇用関連	60歳代	沿岸南部	自立を目指している方々はそれぞれ住宅を再建しておりますが、その他の高台移転を要望している皆さんは行政の動向を見守っているようです。浜の皆さんは新造船の納品なり、漁港工事の着工、ウニの口開け、ホタテの出荷（10月）、アワビの口開け（11月）、浜の活気が戻りつつあると実感できます。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸北部	就労し、生活しているため。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸北部	高台移転地が決まり、続々と家を建てる方が増えてきました。また、徐々に仕事の需要も増え、被災した方の生活も元通りになってきているように感じます。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸南部	今後の生活の見通しがつかず、仮設住宅で生活している方もいますが、自宅を修理、新築して仮設住宅を出る人も増えてきているので、少し回復していると感じます。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸北部	コールセンターについては順調に運営されているようである。自分自身は震災前と変わらない生活ができているが、仮設に住んでおられる方々の状況はよくわからない。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸北部	住宅を建てる人もあちこちで見られるようになってきているが、高齢者世帯等では高台への移転や住んでいた土地の今後のこと等が進まなくて大変だと話している人もいます。

やや回復した	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	衣食については以前と変わらない生活になってきているようだ。住環境としては、仮設住宅を出て新居に移っている世帯が少しずつ増えている。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	復活している店舗等が増えているように思う。仮設住宅に住んでいる人達への対策が進んでいるのが見えてこない。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	進んでいるといっても、少し先が見えてきたのでしょうかという程度。住宅再建の許可がなかなか下りず外へ出て行く人もいる。生活の基盤を変えてもがんばって進んでいこうとしている人たちがいる。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	家が建ってきている所を見かけたり、高台移転の計画説明会実施（具体案）をTV等で目にしたりする。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	復興計画が具体的に示され、希望が見え始めている。新住居（住宅）に住むまでは回復とは言えない。しかし、仮設住宅については、要望を聞き、改善に繋がっている点でやや回復、進んでいるとした。
どちらとも言えない	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	自分の生活や周りの方の生活ぶりを見てみると、足踏み状態が進んでいるように見受けられます。仮設住宅内でも世帯間の格差のようなものが見えてきた気がします。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	少しずつ回復しているがまだまだだと思う。住宅建設がどんどん進んでいるが、建てることのできる人とそうでない人の格差ができています。早く復興住宅を作って住宅だけでも生活回復を進めてほしいと思う。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	自宅を修理したり、新築で建てて住み始める方もだんだん増えてきたが、全体としては以前とあまり変わらないと思います。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	目に見える復興がない。住民は進まない復興に怒りを感じている。
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸北部	特に回復が進んだ実感はなし。
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸南部	復興住宅の早期完成に努めてほしい。
	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸北部	見た目では、具体的に進んでいるようには感じない。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	全体に見れば、時の流れと共に回復しているように思いますが。しかし、仮設住宅の周りを見ると「どちらとも言えない」を選びました。狭い家において、周りのことを気にかけながら生活しなければならない日々がストレスとなって病院通いしている方が減りません。むしろ増えているかもしれません。衣食住は足りていても心の支援がほしいと思います。みんなが仲良く楽しく健やかに過ごせるのは難しいことかもしれませんが、高台移転の用地も決まらず、仮設暮らしが続く以上は共存共栄しなくてはなりませんので、皆が心一つになれるようなご支援をお願いします。
産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	震災から1年半が経過し、被災者の生活は落ち着いていると感じられる。しかし、まだ多くの人々が仮設住宅に住んでおり、現在の復興住宅の建設計画が一部の地域で進んでいるものの、最終的に住宅の確保ができるまでは回復したとは思えない。	

どちらとも言えない	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	経済力のある人は、他に土地を確保し住宅建築を始めている。その意味では、回復傾向にあると言えるのでは。一方、経済力の弱い人は、高台移転を含め、今後の方向性を見えだせずにいる。ある60代後半の被災者が、ここ1、2年の間なら新築することもできる。しかし、それ以降になると新築は困難になる。健康面での不安も大きくなるし、借金することも難しくなるといったことを話されていた。住居に対する先の見通しが見つからないことに苛立ちを感じている様子だった。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	土地利用計画等を示されるようになってきたが、まだ具体的に一部でも着工、施工されている段階でない（解体途中）なんとも言えない。地元独自の事業が減っているように思う。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸南部	住居を新築した方と未だ仮設住宅を出られない方の差を感じます。雇用も増えていると感じますが安定した収入を得ている方とそうでない方の差が住環境の再建に大きく影響していると思います。元々住んでいた土地に戻れない方々のための土地の確保、経済的な支援がまだまだ必要なのではと思います。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸北部	石油備蓄基地等が被災し、実際どれほどの復興が進んでいるのか不明ですので「どちらとも言えない」としました。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	やっと仮設住宅から復興住宅へと生活面での進展が見られてきている。生活基盤がしっかりとすることが第一と考えられるので少しは住環境が好転へ向かっていると思う。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	3ヶ月間では周りに変化は感じられない。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	周囲を見ると高台移転の工事を行っている人も数名見かけるが、一方では何も進んでいない人もいる。格差が大きいように思います。
あまり回復していない	地域団体・郵便局関連	20歳代	沿岸南部	企画等、進んでいる話を耳にするが形として見えていない。
	地域団体・郵便局関連	20歳代	沿岸南部	住環境が仮設というだけである程度は回復したとは思いますが、最近特に進展がなく、停滞しているように感じる。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸北部	住宅半壊の人はすでに修理して入っていますが、全壊の人は新築までいかず、そのまま仮設住宅に入っておられる方が多いです。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸北部	復興計画の周知が広報等でされているが、具体的説明が十分とは言えず、移転先の整備がまだであること。
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸南部	市内中心部から離れている仮設団地のせいなのか賑わいもないので。被災地区の復興計画等の説明会に参加し、諦め感が増しているように感じる。
	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸北部	高台移転の案も決まりつつあるようですが、入居ができる状態になるには何年（数年）先のことで、それまで今の状態での生活は不安に思います。また、入居の条件が借家住まいの私には納得のいかないものでした。
	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸北部	生活状況・実態はあまり変わっていない。移転地は決定したものの、用地買収等が難航していていっこうに進展が見られない。私も含め、疲労感が増しているように思う。

あまり回復していない	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸南部	被災者の方の中には、一部新築したりリフォームしたりする方もいるが、全体を見るとまだまだ仮設生活の方が多く、代替地が出来上がるのを待ってる状態。ただ、仮設での生活にもいづらか慣れたところもある。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸北部	雇用面での改善は少しずつ見えてきたように感じますが、住宅再建の場所がいつできるのか？自分の考える予算でできるのか、頭の休まる時はまだまだという人も多くいる。高齢者も多く、時間との戦いに疲れている人もあるようだ。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸北部	一部の人達は自主再建をして仮設住宅から出て行ったが大部分の人達は復興住宅や高台団地、区画整備が早く進むよう要望している。自分の住家があってこそ前に進む気持ちが出てくるのでは…。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	前回（8月調査）の時と状況が変わっていない。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	今年は残暑が厳しかったせいか当仮設住宅では高齢者が3人も入院している。明るく元気に見えても心に不安を持っているのだ。中でも住宅問題は重く、進まない高台移転とその費用は制度資金等の具体的な情報が必要だろう。医療費も社会保険等有料になり、支出が前に戻り負担になって感じる。集会所に持ち込まれる茶菓子は手作りが多くなってきた。お年寄りを中心に昔のおやつが復活したのだ。衣類は収入の差が出てきたようだ。
	地域団体・郵便局関連	70歳代	沿岸南部	いつまで仮設住宅で生活するのか不安である。高台移転の場所を選定し、高台移転を希望する被災住民を安心させることを希望します。
	地域団体・郵便局関連	70歳代	沿岸南部	仮設長屋店舗、事務所等、ある程度建ち並んだようですが、客足は寂しい感じに見受けられます。4時～5時には閉店です。毎日の生活でスーパーはいつも賑やかです。仮設住宅での毎日は、今まで積み重ねてきた全てをなくした悔しさを諦めた静かな暮らしだと思います。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸北部	地域に関して言うと、住宅の高台移転工事が進んでいないように思う。漁業に関しては共同作業では被災前の収入の10分の1程度しか収入を得られない漁業者もいたりするため、1日も早く個人で操業できるようになれば、安心して生活するほどの収入も見込めないため、今の時点では回復の実感はほとんどない。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	雇用の創出に関しては、ほとんど実感がない。まだまだ失業者が溢れている。漁業者は船が揃ってきたが、養殖が多いため、水揚げが順調になるまではこれから3年かかる。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	復興計画が発表されていないため、ここ3ヶ月間は何の動きもないように思われます。日々、焦りを感じている毎日です。今年中には復興の計画だけでも住民に伝えてもらえるとそれなりに進められると思います。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸北部	応急的な回復はスピーディーであったが、ある程度の段階に来て停滞している。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	未だに多くの地域住民が仮設住宅での生活を強いられている現状を踏まえると「あまり進んでいない」という印象を持つ。
産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	買物ができる場所も増えていない。平地が少なく、自宅の建設も進まない。	

あまり回復していない	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	被災した商店街は、以前のような建物がなく、賑わいがありません。建築規制があり、家を建築できなくて、仮設住宅から退去できなくて困っている人がいます。復興計画により、以前住んでいた土地を売却しなくてはならない一人は買取価格が非常に安く、代替地を取得できなくて苦しんでいます。50代以上の人の中には、資金がなく、また住宅ローンも組めず、一戸建住宅を建築できなくて困っている人がいます。40～50歳代の人はまだ希望通りの再就職ができず、焦りが見えるようです。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	最近になって町を離れる人が見られる。新築、公営住宅等の話すらない。今後の地域の回復が不透明である。浸水地域にスーパーができています。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸北部	前回同様です。被災している人の生活状況を見ると、回復していない人が多く見られます。経済力があり、仕事を失っていない方では、住宅を再建しておりますが、もともとの経済力が低く、職を失った方において生活は厳しいと思われま。まずは、財産を失い再建が難しい方への支援を厚くしてほしいと思います。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸北部	集団移転先が決まった市町村もあるが、関連工事が進んでいる実感が湧かない。モデルハウスの内覧会の広告が新聞の折込に多く見受けられるようになったが、民間での宅地整備が目につき、行政サイドでの宅地整備の遅れに不満も感じてしまう。また、宅地候補地の中には埋蔵物調査に数年かかる話を聞くと、東北地域では気候の制限から調査時期が限られています。調査費用の財源化等の問題から、今までに見過ごしていた地域まで調査の対象とする傾向に私は調査自体の正当性に疑問を感じてしまう。いろいろと課題はあると思うが、目に見えて集団移転先の工事が着工しない限り、居住環境に関しては回復したとは感じられない。また、雇用のミスマッチで行政サイドは解決してしまうが、多くの施設で介護・看護職員の補充に苦慮している。新設、増床と施設は増えるが、働き手がないのが現状で、このままでは施設の共倒れによる倒産や施設閉鎖が出る状況まで来ていると感じている。被災地での介護報酬の引き上げや人員基準の見直しや経過措置の政策が必要と思われる。失業者が求人に繋がらないのは雇用のミスマッチだけではなく、働く意識がないのではと最近感じている。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	居住意向に関する面接が始まり、高台の候補地や住宅再建、企業や店舗も増えつつある。しかし、住宅再建や仮設住宅での暮らしの見通しが立てず、日々生活の不安を抱えている人も多くいる。特に高齢者は不平不満も言わず、今の生活に慣れようとしている姿は痛々しい。子どもたちの中にも思い切り体を動かすことができない環境でストレスを感じているようだ。また、体力の低下も懸念されている。学校では派遣カウンセラーの方との連携を密にし、「心のケア」が段階的に進められている。相談件数は昨年度より増えているが、適切に対応してくださっている。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	仮設での生活が長くなれば先の見えない不安との戦いも長くなります。今後の住宅の確保、復興計画の具体化をお願いしたい。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	自宅建築に関わり、土地の確保ができていない人が多い。仮設の飲食店ができてきてはいるが十分ではない。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸北部	自助努力による回復でなんとか以前の生活に近づいている人はいるが、行政による回復はあまり大きな変化を感じない。

あまり回復していない	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸北部	主要産業である水産関係にはやや復興の兆しはある。ただし、被災者の生活状況に限定してみれば、依然として回復の度合いは進んでいない。原因は、生活の基盤が未だに確立できていないことにあると思う。仮設住宅に住んでおられる方に伺ってみたが、「将来の設計ができない。まず住む場所がない」というご意見が多かった。このことから、地域の購買力もあと一歩というところであることに変わりはない。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	高台移転の計画は説明されたが、なかなか進んでいない。また、雇用の状況も地元企業ではない団体が入り込んでおり、その団体が撤退すると多くの住民が失業することになる。
	教育・福祉施設関連	60歳代	沿岸南部	住んでいる地区の道路わきにどんどん積み上げられるガレキ、早く何とかしてほしい。粉塵がひどく、生活に大きな障害が出ている。
回復していない	地域団体・郵便局関連	10歳代	沿岸南部	11月に入り年賀販売をしているとお客さんに「住所を全部流されたから」という理由で断られることが何度かある。雨、風をしのげる場所を確保できてはいても3/11以前の生活を全て回復できることはこの先ないのかと感じている。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	私は仮設住宅がなくならない限りは被災者の生活が進歩したとは言えないと思っています。
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸南部	震災前の事業所が再開している方もいるが、一部であり、まだまだだと思う。住宅についても、行政の作業としては少しずつ進んでいるのだろうが、被災者一人一人にとっては何ら状況は変わっていない。
	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸北部	住環境に関しては行政による移転先用地の確保が難航し、公営住宅、一般住宅共に建築開始の目途が立っていないし、自ら用地を確保し新築したのも1軒だけである。雇用に関しては建設業を始め募集はあるものの、応募者が少ないように見受けられる。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	各家庭における被災者の高台移転への進捗のスピードが遅く、仮設住民の不安がつづっている。復興計画が見えず、自分達がどうなるのか不安の状況になっている。(例 行政主催の説明会があっても行かれない住民が多く、復興計画の資料をもらっても理解できない住民が多い。)
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	周りの現況に慣れてしまったのでわからなかったが、他から来た人やボランティアの人に「1年前と変わっていない」と言われた。生活についても、住宅について進んでいない。仮設から何人かは住宅に移ったが、前の家を直して住んだだけのようなだから。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸北部	移転先がまだ決まっていないのかなんの話もない。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸北部	住宅地をつくるため、木を切り、山をならし、埋蔵文化財調査が行われる等、生活環境を整える取組が目に見えるようになった。ただ、それらが済み、家が建たないうちは被災者の暮らしは今のままであり、回復が進んだとは言えないと思う。(でも、工事が進んでいる様子を見ると、気持ちが前向きになります)



回復していない	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸北部	仕事で訪問する家族に話を聞く。何も変わっていない上に新たな問題、病気で遠くの病院に通わなければならないし、仕事も切れる、普通に生活していても大変なことなのに、ましてや不安定なまま、さらに苦しむ状況にどうすることもできないでいる。気持ちだけはしっかり持つよう、がんばっているという。家を建てられる方はごく一部。できるだけ訪問するようにしている。回復の実感はありません。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	住宅をなくし、土地も使えない状況の人がほとんどである。災害住宅の予定も確かではなく、見通しがもてない生活を送っている。
わからない	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸南部	今まではただ見た感じだけで、少しは回復していると思っていましたが、最近聞いたところでは夜に電気をつけずに生活している人もいるということで、被災者によってはまだまだという人がいらっしゃるのかなと思い、「わからない」にしました。
	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸南部	生活の回復度は、それぞれの事情によって異なると思います。生活の回復に関しては、他の人の生活の中身がわかりません。あまり詳しく聞いたりしないのでよくわかりません。自分のことでは生活は少し回復したと思いますが、家もなくなり将来の見込がわからず不安です。
	教育・福祉施設関連	20歳代	沿岸南部	私自身の周囲の生活等は3ヵ月前とほぼ変わっていないように思う。しかし、ハローワークに通う人の多さを見ると雇用などはまだまだなのかと感じる。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸北部	住宅が全半壊した被災者の自宅の新築、改築が行われている。

## II 地域経済の回復に関する実感

地域経済の回復度及び3ヶ月間の進捗状況についての回答区分により、自由記載欄の記載内容を取りまとめると以下のとおりであった。

区分	職業・所属等	年齢別	地域	自由記載（理由）
回復した	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸北部	回覧等の情報によると、水産関係施設は今年度中にほぼ復旧する見通しとなっている。また。施設の復旧に伴い、水産物の生産も回復しており、水産加工品の製造や産地では朝市（11月18日）の改修等、浜の賑わいも戻りつつあります。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸北部	復興需要により特に建設、土木関連、宿泊関連が非常に好調であり、消費活動にも波及してきている。しいたげや肉牛等、風評被害を受けている農業経営者もいるが保障金等により深刻な状況には至っていない。

回復した	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸北部	完全に被災前と同じように、とはいかないかもしれませんが、回復していると思います。復興のための港湾整備や土木作業等で多くの雇用が産み出され、他県や他地区の人材が雇用されていると聞きました。反面、地域の人材はあまり雇用されていないのでは・・・と聞いたこともあります。多くの人が地域に入ってくることで地域の経済が活性化するというメリットもありますが、地元の人材の雇用が増え、将来的にも優秀な人材が地元にとどまることで、地域の経済がより発展していくと思います。地元に残りたいと思える街づくり、地元に残りたいと思う人材育成が必要と感じています。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸北部	湾岸設備工事、道路工事が盛んであり、それによって地元の会社が潤うことにもなっているようだ。
やや回復した	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸北部	漁に出る人が以前に比べて増えたように感じる。唯一のホテルがリニューアルし、雇用も少しでも良くなったと感じる。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸北部	漁業の回復。（ウニ種苗施設の再開）漁具を流失した漁業者は未だ休漁中。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	「回復した」に丸をしてもいいほどだと思います。秋刀魚の季節になり、水産業中心の場所は人で賑わいすら感じます。外と内では見た目ほどとはいかなくても「回復した」に丸をつけたくなるほど回復してきていると思います。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	仮設店舗や仮設の作業場など、だんだん増えてきているので、経済状況は少しずつではあるが回復していると思う。
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸北部	漁協の市場が新築し、朝は漁師がいて活気がある。ただ、漁が不足している為、被災者の漁師達は生活が苦しい状況であるように感じる。
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸南部	仮設の工場、事業所等が整備されているようだが、まだ営業できないところもあると聞く。資金力の差か？
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸南部	1次産業、特に水産業に対しては手厚いが2次や3次に対してはギャップがある。バランスを取って施策を行わないと大変なことになる。
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸南部	経済的な面で見ると、企業・商店共に仮設、本設の違いはあっても次々と再開したり開業しています。ただ、その利用状況までは正直わかりかねるので、実際どの程度お金が流通しているのかは？です。
	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸北部	ガレキの山が少しずつ減り、道路工事も進み、壊れた建物も直りつつある。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸北部	漁業や農業は少しずつ回復傾向にある。土木、建築関係の事業所の繁忙に伴い、商業者にも多少の波及効果が出てきたように思う。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	港等に船が出入りする数が多くなっているようです。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	少しですが、お店が増えている。
地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	漁船や養殖施設の復旧で今春はワカメの生産、出荷ができた。ホタテ、ホヤ等の養殖施設復旧で来秋には出荷の目途がついたようだ。出荷前でもがんばる漁業参加者達は所得の保障があり、生活資金は安定すると思う。漁船漁業は漁協の定置、個人定置とも秋ザケ漁等で収入が始まった。	

やや回復した	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	漁業中心の地域ですが、漁師さんたちが徐々に漁に出かけるようになってきている。漁業関係の施設も徐々に復活して仮設住宅内からも何人かの人々が働きに出かけている。
	地域団体・郵便局関連	70歳代	沿岸南部	農業は来春の稼働への準備中と思う。水産業は地域で違いが大きいと思います。海底の障害物のためなのでしょう。林業の場合は、建設復興次第と思う。4年後からは土地と建築資材の高騰になる。
	地域団体・郵便局関連	70歳代	沿岸南部	仮設商店街の建設が進み、また大型店舗の復旧もある程度地域経済は回復したと思います。ただし、仮設住宅より商店街また大型店舗までの距離が遠く、日常の買い物等で不便を感じています。
	産業・経済・雇用関連	30歳代	沿岸南部	養殖漁業は被災前と変わらない様に思える程回復したように思う。水田に関しては被災後とほとんど変わっておらず、手つかずのままである。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸北部	種苗施設の建築も済んだし、養殖漁業（わかめ、昆布）も被災前とほとんど変わらない状況にまでなんとかたどり着いた。定置漁業については完全復旧して稼働している。しかし、倉庫、漁具、船を失った人は依然として厳しい状況にある。養殖作業船の造船の遅れや倉庫の建築、漁具、資材の整備等、まだまだ大変そう。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸北部	事業所等の復旧工事が着実に進んでいるから。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	カキ小屋のニュース等を見ると活気もあり、回復傾向にあるように感じます。産直では地元の野菜を売っているし、傍目には回復してきているような印象を受けています。実際はよくわかりませんが。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	養殖施設ができてこれからだと思う。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸北部	漁船が少しずつ増えてきた。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸北部	災害復旧工事が終了して、本格稼働した水田で震災前と同じくらい収穫ができた。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸北部	原木椎茸の風評被害に対して、損害賠償金が遅れているので生産者は大変苦しい思いをしている。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	インフラを中心とした復旧工事等の受発注状況等を見ると「やや回復した」「やや進んだ」という感じを受けるが、受注した工事が計画通りに進捗するか（資材、人の調達等の課題を抱える中で）これからの勝負だと感じる。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	住宅資金に関する相談が増えてきた。求人を出しても全く集まらないと経営者が嘆いていた。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	グループ補助金等を活用し、事業を再開した企業が多少増加した。（ホテルや水産加工業の企業等）ただし、人手不足（応募者が少ない）のため、業務内容としては十分ではない。この傾向は求人をしている企業全般に言える。賃貸住宅（アパート等）の不足により、外から通勤している人が多く、地元経済の発展に影響を与えている。今年の夏はウニ漁も行われ、また、アワビ漁も始まる予定です。だが、アワビの取引単価が安値の予定で漁業関係者は困っている様子です。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	仮設店舗、仮設事務所がさらに増えているし、新事務所開設した事業所も出てきました。夜、対岸から見る街の灯りが輝きを増している。

やや回復した	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	被災して再開した商店や新規開業した商店（仮設店舗であるが）が増えている。水産加工会社も工場を新築再建している。
	産業・経済・雇用関連	60歳代	沿岸南部	地域の企業は人手不足。原因は緊急雇用だと言っている。仕事を取りたくても人手不足で引き受けできない。
	産業・経済・雇用関連	60歳代	沿岸南部	復旧関連の工事等で求人数も多く、水産業も以前の水準近くまで戻りつつあるかなど。
	産業・経済・雇用関連	60歳代	沿岸南部	仮設住宅に住んでいる女性の皆さん、誘い合っただけの仮設の作業所まで歩いてワカメの芯取り作業に通って働いている様子。浜の漁は今年鮭が不漁のようです。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸南部	復興に係る建設関係の雇用の増加、被災した企業の再開、漁業の回復等からそう感じました。仮設商店街の整備や被災地域でのスーパーの再開等から買物に関する負担も少なくなっています。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸南部	仮設の商店街も多くなってきているので商業は回復しているように感じる。農業についても田畑の整備（土を入れる等）の話もあるので、少しは進んでいると思う。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸北部	漁業設備の復旧、食堂の再開、仮設店舗の営業がニュースになる度、復興が進んできているなど感じる。小学校でも授業（生活科や総合的学習の時間）の一環で、地域では働いている人々のがんばりに触れてきており、復興への意気込みを感じた学習ができたと思う。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸北部	地域の柱の産業である漁業は少しずつ回復はしていると思うが、漁港等を見ると完全に修復されたようには見えない。まだまだ時間がかかるように感じる。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	復活している店舗が増えているように思う。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	仮設でも店が始まったりやっとな感じでホームセンターやドラッグストア等が開店している。飲食店も増えてきている。個人の商店等ではまだ仮設でも始められない所が多いと思われる。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸北部	魚市場や水産加工場が復旧している。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸北部	被災地域としてたくさんの援助を受けました。現在は特に被災地だからという援助は受けなくなったと思います。そのことからやや回復にチェックしました。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	飲食業の復興が目立つ。しかし、仮設住宅での営業がほとんどで本当の意味での復興がどうかかわからない。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	水産加工場ができ、動いていること。TVで定置網の様子を見たこと。少しずつではあるが、進んでいることを感じている。鮭等の水揚げが増えることを願っている。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	漁業関係において、やや地元の魚介類が出回ってきたから。
どちらとも言えない	地域団体・郵便局関連	10歳代	沿岸南部	現状は飛びぬけた回復はしていないと思う。だけど海も落ち着いてきて漁師さんたちが海に行くのを見るし、港にいる人も増えてきている。幸い、農業がそこまで栄えていなかったことがよかった。
	地域団体・郵便局関連	20歳代	沿岸南部	仮設店から町の中へ新築し店舗を構える店も出てきているが、数店のみであり、被災地はそのままである。

どちらとも言えない	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸北部	復旧工事により建設土木関係は忙しいと思うが、漁業に携わる方にとって活気が戻るまでには時間がかかる。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	進んだと思うと後退したり、実際回復しているかどうか判断がつかないのが本音です。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	住宅再建で建築業の仕事が増えて建設業界は回復していると思う。個人の商店等は思うように人が入っていないのでそれほど回復していないように思う。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	水産業だと大きな施設が再建されたり船が新しくなったりと少しずつ回復はしていると思う。しかし、商店街等は補助金付きのイベント等が多く、賑わいが自力のものでないため、本当の回復力がどれほどなのかわからない。
	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸北部	基幹産業が水産漁業関係で自然が相手だけになかなか進まない。
	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸南部	地域によって津波で流されなかった所の経済と津波で跡形もなくなった場所とでは全くの違いがあると思います。飲食店に関しては、津波で残ったところはバブル状態だったと思います。けれども仮設店舗等ができたことにより落ち着いてきているようです。
	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸南部	一部の水産加工会社は会社再建したり造船所等もでき、雇用等も進んでいるが、全体的にはまだまだ仮設店の状態で2年間ということで、その先が見えない感じである。
	地域団体・郵便局関連	70歳代	沿岸南部	仮設商店街の建設が進み、宿泊施設2箇所建設、水産加工施設が若干建設され、さらにアルミ造船船会社誘致など、少しずつ地域経済の回復兆しが一応見られるが、ガレキ撤去の復興企業と地元水産加工業の賃金格差があり、これが雇用を阻んでいるようである。水産業にあっては、水産養殖が軌道に乗ってきた。定置漁業にあっては、漁獲量がいま一つである。秋のサケ漁を期待している。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸北部	仮設の飲食店にお客が入っているようには思えない。観光客の減少がやはり目立つ。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	漁業に関しては、水揚げだけで生活するのがまだまだ困難である。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	3ヶ月前と同じように思われるが、中には再建している店舗が増えているように見えるので徐々に回復に向かっているように感じます。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	浸水地域でも本設によるスーパー、事業所の建設が増加してきた。ただし、グループ補助金等の受給先が中心で、補助金頼みといった構造は変わらない。二重ローン対策としての債権買取実績が増加してきたことから、生産、販売体制のギアを入れ始める企業も出てきた。しかし、本格的な設備投資に向けた動きは鈍い。

どちらとも言えない	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	水産加工業はグループ補助金により主なところは復活した。しかし、震災前の売上水準に戻っているところは少ない。人手不足も影響している。建設業、宿泊業は好調であり、他の業種との回復の格差が起きている。復興計画が進まないため、商店街の復興が遅れており、ほとんどが仮設店舗で営業したままである。補助金が出るということで、不必要な建築、過大な建設計画が見受けられる。自分のお金を使うのであれば絶対に計画しないはずであり、疑問を感じる。各市町村ごとに補助金を出しているが、広域を一体として考えるべきである。無駄が多すぎる。本当に困っている必要な企業、人を支援するべきである。困っていない企業にも補助金を出している。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	イベント等開催しているが、場所に限りがあるため以前の賑わいが少ない気がします。朝夕の通勤ラッシュが多い。大型店舗は賑わいが多いが中心店が少ない。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	建設業、サービス業（宿泊）は回復が見えるが、農漁業については思ったほど回復していない。
	教育・福祉施設関連	20歳代	沿岸南部	うちの母が漁業関係の仕事についているが、震災前と変わりなく仕事をしているように思える。しかし、町などを見ると栄えているようには思えない。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸北部	地域全体を見ると、震災以前の状態に戻っているように見受けられます。しかし、震災により倒産した企業も多いことから、実際のところは回復しきれていないと考えます。大きな被害を受けた企業や倒産した企業等への支援、そして雇用が充実してきたら回復と見られると思います。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸北部	変化を感じない。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸北部	漁業、農業等に関しては風評被害があまりなくなってきたように感じます。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	仮設店舗や商業施設は少しずつ増えてきた。しかし、後継者がいない店や小規模店の方々の回復できない場合の収入がどうなっているのか心配。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	水産業が少しずつ回復しているように思われる。しかし、船を買えず海から離れる人も少なくない。ガレキ撤去作業等、一時的に仕事はあったものの既に以前の話となり、長期的に働くことができる場所を探すのは困難。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸北部	第一次産業や商店等自営業の方々は再建しようと少しずつ変化してきている気がする。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	復興に関わる雇用はあると思うが、この地域の基幹となる産業振興地域に根づいた企業の少なさから将来的な不安は拭いきれない。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	水産業に従事する近所の方々の働きは震災前に近づいている方と全く再建できない方とある。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	変化の様子は感じられない。
あまり回復していない	地域団体・郵便局関連	20歳代	沿岸南部	停滞気味だと感じる。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	この3ヵ月の間に新しい店舗ができたことは確かではありますが、その店舗で使うお金が被災者の皆さんにないというのが実情ではないでしょうか。

あまり回復していない	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	グループ補助金等、必要としている企業への支援金がまだ足りないと感じる。また、再建をしようとしても周りにも周りの業者が忙しく、パンク状態で工事や書類の審査が進まず、出だしが遅くなっている。書類の審査（建築確認）等が早く下りるようにもっと専門の職員を増やすべきだと思う。
	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸北部	農業に関しては、復旧した水田の中に飼料作物等に転作した所も見られ水田として全てが回復したとは言えない。漁業に関しては磯舟の配備はほぼ回復したが水揚げが低迷し所得がままならない。小型船の配備も進んだが、当地での震災前の保有数に及ばず、保有しようとしなない漁業者も有り、磯舟漁同様水揚げが低迷している。事業所に関しては個人商店がほとんどであるが、制度資金等を積極的に活用し復旧しようとする動きがあまり見られない。
	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸北部	サップ船が行き渡り、いよいよ新造船の就航もあつたり、田畑の復旧が始まってきた。しかし、これからという感じである。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸北部	被災前でも商業工業元気がない感があったが、被災後、集落が分断となり世帯のまとまった集落が少なくなり、商工関係者も、どこで商売したら良いのか決めかねている人達もいるようだ。時間の経過の中で海の近くから人が少なくなっているようだ。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸北部	農業は田の再建が済み、米の収穫を迎えたが農業機械等がなく被災しない人達から機械を借りたりして作業している。同じく浜にも舟の数が少なく漁業から離れる人達が見受けられる。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	基盤産業の回復が遅れているように感じます。漁業の不振や観光産業の不振等、地元の企業の業績が伸び悩んでいるように思います。それに伴う雇用もいま一つなように感じます。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	漁業関連施設の復旧は徐々に始まっているが、その他の産業は回復の兆しが見えない。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	飲食店が多少開店しているが、商店街の方向が全然見えない。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	漁業者の方の収入はまだまだ遠いのだと思う。ウニの開口も数回予定があったが、1回だけになった。価格も安かった気がする。舟はできたが道具の準備に最低50～60万円かかるそうです。これからのアワビ漁も入札価格は安いようだ。また経費がかかります。開口の回数が多いことを祈る。刺網漁は海底に沈んでいるガレキで網が破れる。水産加工の工場は建設の動きはない。造船関係は良。仮設商店街は客足が少ないようです。元気の良いのはガレキ処理。護岸工事も細々、もう少しピッチを上げてほしい。
	地域団体・郵便局関連	70歳代	沿岸南部	水産業の方々も、また全国からのご支援を頂き地元住民協力して働き出した。無からの出足に資金面では行き詰る状態です。事業、土地購入、住宅建設等に金融面での多大なる緩和を考慮してくださればと思っております。住民の元気の源は家を持つこと、そして元の生活に近づくことだと思いますが・・・。
産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸北部	過疎化が進んでおり、震災に関わらず、低迷している。企業誘致や観光資源の開発等、何らかの対策が必要と感じている。	

あまり回復していない	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	がんばる養殖事業について、初めの説明から実際やろうとしたら一日でも早く復興しようとして少しずつ生産して出荷しようとしたら収入源とみなされ、いろいろ注文や説明が求められた。今現在、震災後どのように海の状態が変わったのかもわからず、以前のように収入があるとは限らないのに書面上でばかりの判断をされるのが悔しい。ここ2～3年完全に復活するまでいろいろな問題や障害が出ると思うが、それに対して対応や配慮がない。一回でも現場を見てほしい。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸北部	応急的な回復はスピーディーであったが、ある程度の段階で停滞している。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	グループ補助金が認定されない企業が多く、経済の活性化が遅れる要因となっている。新しい物が建ってきているという実感がない。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	冷蔵倉庫、水産加工所ができています。生活するまでの稼働能力がない。海況が悪いため、魚が上がらない。賃金が安いので内陸に仕事に行く人が多い。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	前回とほとんど変わらず。地物水産物がスーパー等に並ばないのでまだまだ復旧には程遠いのだと想像する。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸北部	最近、町内でも大手のホームセンターやコンビニエンスストア等の出展や計画が聞こえてくる。遠出して買物に出かけなくても県内どこでも同一価格で買物ができることは大変助かるが、被災者の方々が仮設店舗でがんばっているのを考えると、今後商売が行き詰まり閉店する事態にならないと懸念しています。農林水産業に関しては、放置された耕作地を見るとまだ進んでいないのかと感じるが、水産関係は船舶の数は徐々に増えている。夜に漁火が震災直後と比較すると多くなっていると感じている。漁獲量も多くなっていると思われるが、加工関連の施設の整備がまだまだ回復していない。そのためにあわび買い付けの価格も中国関連の業者と取引となり、例年より格安での入札価格と聞き、1次産業は復興景気には程遠いと感じています。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	以前あった場所には商店はなく、違う場所に移転する店もある。被災前のようにはいかない。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	漁協は破産宣告を受け、整理をしている状況であるし、海岸がガレキ置場となっていて以前のように漁ができないから。地域経済は水産業が主軸であるが回復はしていない。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	建設業は好調のようだが、その他の業種は苦戦しているようです。役所に農林水産業（例：港の整備をするための計画を立案できる人等の人材不足等のソフト面の問題がある）の基盤整備をするスペシャリストがいないという話が聞こえてきているから。
回復していない	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	これまではボランティア始め様々な人達が地域を訪れ、商店の人達も喜んでおりました。今、町の人の声を聞くと「おまつり」はもう終わりだ、と言う声が聞かれます。街の形ができていないので経済は回復していない。今後どのようにして回復するのか見通しがつかない。
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸南部	緊急雇用や建築土木関係の一時的な（数年間の限定）仕事で何とか生活をつないでいる状況だと思う。事業所が津波を被らなかった所も結構あるので助かっているのだと思う。



回復していない	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸北部	前回と同様以下のとおりである。漁業関連の災害復旧工事の本格稼働によって、地域経済に回復の兆しはあるが、住民の購買力にいま一步力がないため、全体の底上げとまでは至っていない。ただし、各種のイベント企画等で回復に向けての努力は見られる。震災復興関連工事が始まっているが、地元企業の活力が弱いためほとんどが中央企業の下請けとして参加している。このため、地元にはあまりメリットがないように見える。
	教育・福祉施設関連	60歳代	沿岸南部	浸水地区に商店がどんどん新設され、人が集まってきて、一見活気づいて見えるが、怖くて足を運べないという人達もいる。また、流された学校は現在取り壊しているが、子ども達の為に新校舎を急ぐべきだと思う。他の地区へ転校していった子ども達は年数がたてば戻ってこない。運動場の確保も急いでほしい。
わからない	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸北部	地元の食材も増えてきたのか、目にするようになった。個人でお店を経営していた方はまだ仮設のまま。3ヶ月前から見て進歩はないと思う。被災なく生活している方は災害に対する意識が薄れているようにも感じます。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	よくわかりません。経済の回復は震災のせいだけではないようにも思いますが。
未回答	産業・経済・雇用関連	30歳代	沿岸南部	岸壁のかさ上げ、クレーン等の整備が少しずつではあるがされてきている。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸北部	仮設の店舗は営業しているが、お客さんはあまり見られないように思います。仮設住宅から歩いて行くには遠いため、皆さん車を利用し隣の市のスーパーへ行っているようです。漁業では少し復活の兆しが見えてきているようですが、水揚げの量はまだまだと話していました。

### Ⅲ 災害に強い安全なまちづくりに対する実感

災害に強い安全なまちづくり及び3ヶ月間の進捗状況についての回答区分により、自由記載欄の記載内容を取りまとめると以下のとおりであった。

区分	職業・所属等	年齢別	地域	自由記載（理由）
達成した	地域団体・郵便局関連	70歳代	沿岸南部	海岸周辺はかさ上げ工事が一応始まっているが、全体的には緒に就いたばかり。まだまだ先のこと。津波被災海沿い地区は平地となり無防備。3.11規模の大津波襲来があれば、さらに奥地へと被災が拡大する恐れあり。早急な復興が望まれる。 こうした中で国の復興予算が他に流用されているとは驚き。年度内予算を執行されない場合は、積み立て次年度予算を執行できるはず。被災地の企業が全滅、そして人手不足となっている。これらの早期復興が急務である。
やや達成した	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸北部	形はまだはっきりできていませんが、海岸沿いの工事は少しずつ進んでいるように感じられる。傷んでいた道路はほぼ以前と変わらない状態に近づいたと思う。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	道路の補修、改修等は進んできていると思うが、防災という点ではあまり進んでないと思う。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	防災意識の定着が感じられる。

やや達成した	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸南部	湾口防波堤の工事は確認できるが、その他はやっているようには見えない。
	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸南部	防波堤の修理や災害にあった土手を直すなど少しずつではあるが、進んでいるように見える。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	防波堤工事等が随分進んでいるようです。
	産業・経済・雇用関連	30歳代	沿岸南部	震災で出たガレキを使用した防潮林の跡地にかさ上げの話があるので、やや進んでいると感じる。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸北部	漁港の復旧工事は進み、使用しているが、まだ工事のところもある。被害にあった水田は今年の稲作に間に合って90%が作付けし収穫した。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	地域の海岸線で地盤沈下したところのかさ上げが進んでいる。また、防潮堤の高さも決まった。
	教育・福祉施設関連	20歳代	沿岸南部	少しずつではあるが、道路工事等進んでいる。しかし、防潮堤がまだ手つかずで高台移転の方も手つかず状態。しかし、よくニュースで調査（高台移転場所の）等しているのを見るので、全くしていないわけではないのだと信じている。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸南部	港湾整備、防潮堤の整備が目に見えて進んできています。避難場所の周知も徹底されてきていますが、もっと避難方法の周知、訓練も必要ではと思います。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸北部	港湾の整備等は進んでいるように見えます。しかし、まだ完成には至っていないので早期の完成を望みます。また、我々一人ひとりの意識が風化しないような経済的な啓蒙活動が必要だと感じています。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	未だに防波堤ができていないので、また津波が来たら・・・と思うと怖い。壊れた橋の工事等が進んでいて、避難道が安全に整備されていく予感がする。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸北部	住民の意識は大きく変化したと実感する。また、子ども達や若い世代の人々への教育や指導も意識的に計画されていると思う。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸北部	地域住民の防災に対する意識が高まっている。行政もそのような取組を積極的に行っている。防波堤工事等が進んでいるようだ。
どちらとも言えない	地域団体・郵便局関連	20歳代	沿岸南部	道路工事を見ると進んできたと思うが、その反面工事のために通行止めになると迂回路がないことに気づいた。津波の時も一本の国道に車が列をなし止まっているところへ津波が来たという現状があるため、復旧した後は迂回路の整備を考えてほしい。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	まちづくりは現在進行形で進んではいるが、具体的な工事はまだこれから。いろいろな説明会は各地で多く開催されているが、どれも「案」なので、どうなっていくのかは災害に強いまちづくりについて、多くの住民はまだ理解できていないと思う。
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸北部	周りを見る限りは特に実感はない。
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸南部	実際は測量したり基礎工事等を行っているのだと思いますが、目に見える形になっていないので「どちらとも言えない」にしました。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸北部	防潮堤の整備が進んでいない。

どちらとも言えない	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸北部	現状復旧なので、より安全になったとは思わない。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸北部	小中学校が海の近くにあり、不安を感じる。津波対策として小学校の校庭に数メートルのように壁が作られた。見た感じではすごく立派で安心感があるが、学校を高台に移転する話がうやむやになりそうだ。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	防波堤の工事はまだ始まっていない。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸北部	防潮堤の工事や都市整備計画等、進んでいるようではあるが、未だに目に見える形での変化はない。物理的に確認（心の上でも安心できる）できるのは2～3年後となるのでしょうか。
	産業・経済・雇用関連	60歳代	沿岸南部	高台移転や防潮堤の整備等はまだまだ進んでいないように感じている。情報はいろいろあるが、具体的な話はない。
	産業・経済・雇用関連	60歳代	沿岸南部	計画は進んでいるようだが、具体的に目に見えてない。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸南部	復興住宅については着工等が進んでいると感じます。防潮堤については復旧工事の達成は遅いと感じています。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸北部	整備が進んでいないということではないが、避難方策が以前とどう変わったのかという点でよくわからない。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	津波対策の防波堤の建設が進んでいるようには見えない。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸北部	防潮堤の修復が行われている途中である。小中学校が危険区域に依然としてあり、にもかかわらず高台移転場所等、具体的に決まっていない状態にある。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	計画が実行に移され、完成してみないと「達成した」、「進んでいる」と感じないから。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	変化はあまりない。学校前の道（南北方向）は街灯があるが、東西方向の道は街灯がない。暗くなってから帰る生徒には不便である。歩道は工事中。（早期の完成を希望）バス通学は大変さを感じる。鉄道の復旧を望む。
あまり達成していない	地域団体・郵便局関連	20歳代	沿岸南部	防潮堤がまだできていない。またいつ津波が来るかわからないのにこのままでいいのかなと思います。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸北部	地域ごとに公民館等で会合し、話し合っているようですが、あまり進んでいないような気がします。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸北部	防潮堤の整備等、これからやらなければいけないことがたくさんある。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	月日だけが過ぎていくと思うほど遅々として進んでいないと思います。他県業者さんを多く見る事が増えましたが、全体の風景としては月日の割に・・・といった印象が強いです。個人的ですが、他県業者さんより沿岸中心とした方が回復スピード（全体の）がよい方向に進んでいくのではないかと考えています。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	道路は冠水しなくなったが、川の堤防や防潮堤等、整備は進んでいない。高台移転が話し合われているが、何年先の話なのかまちづくりまでは10年近くかかるように思われる。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	最近では地震が起きても以前程敏感になっていないように感じる。

あまり達成していない	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸北部	震災以前からの堤防、防潮堤の修理は進んでいるが、更に安全を図るために計画されている堤防等の建設が全て具体化していない。
	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸北部	堤防の補修(復旧)工事が見られたり、津波対策工事についての説明会があったりと、いよいよ具体的になってきたという思いはありますが、工事看板が立ち、工事が始まらないと実感が湧いてこないと思う。
	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸北部	壊れた防潮堤の修理もまだ完成していない。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸北部	港の復旧工事は少しずつでも前に進んでいるようには見えるが、アワビ漁は時期になっているが漁に使う船も工事の関係で海の近くに移動もできず困っています。防潮堤は被災したままの状態の高さの考え方がほしい地域としてまとまったのかなあ?防潮堤復興工事はまだまだ。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸北部	防潮堤の整備は最近になって起工式が行われた。その他は全く先の見えない状況で、多くの方々が現状には不安を抱いている。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	仮設住宅に住んでいますが、ここ3ヶ月は引っ越す方はありませんでした。元の居住区も基礎撤去が少しなされているだけで、堤防(既存の物)も新たな構想による第二堤防の工事も何一つ目に見えません。紙面上の説明が何度かなされ、その都度変わり、不安は増すばかりです。私どもでもより理解できる形のある模型等の説明がなされ、早期の高台移転等の計画が決定されれば安心なのですが…。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	消防団の屯所を着工してない。海岸の道路の壊れた護岸も浸食が進んでいる。防災拠点を指す小中学校建設の動きもここ3ヶ月くらい動きが見えない。この部分は足が止まっているようです。
	地域団体・郵便局関連	70歳代	沿岸南部	商業用地、公園用地とか分けなくて買い取ってほしい。土地の買上げを早くしてほしい。
	地域団体・郵便局関連	70歳代	沿岸南部	護岸工事、防潮堤の工事が進まず、大潮の時、地盤沈下等の影響で海岸近くの土地に海水が流入し大変です。護岸工事だけでも早急な対応を考えてください。
	地域団体・郵便局関連	70歳代	沿岸南部	地区別に説明会が始まりました。山手の方に家が1、2軒建ちました。古家を買って入っている人もあります。また、被災した自宅跡地に家を建て、住んでいる人もあります。その周辺に今2軒工事が始まっております。進むべき道が見えず、焦る気持ちはありますが、仮設住宅では未だに身動きが取れない暮らしをしています。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸北部	現状では何も変わっていない。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸北部	波除のテトラポット等全く入っていない。時化が来ると波の勢いを殺せないから波が直接湾内に入ってくる。そのため係留している船舶を安心して見守る状況にない。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	一部防潮堤の修理は始まっているようですが、新たな整備としてはまだまだ見えてこないように感じます。まちづくりにしても計画は練りあがってきているのですが、ほとんど実感がありません。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	建設会社の業者すら入れないという話を耳にしますが、防潮堤、道路とか都市計画が決まっているのであれば早く進んでもらい住民の皆さんに安心させてもらいたい。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸北部	防潮堤の仕事は進んでいるが遅い。

あまり達成していない	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	防波堤、防潮堤工事はほとんど進んでおらず、津波に対しては全く無防備な状態が続いている。避難路、避難場所も行政サイドで明示されておらず、住民の自主的な取組に委ねられている。復興途上における暫定的防災マップも必要ではないか。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	市街地の風景が3ヶ月前と全く変わっていない。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	ハード面の整備が進んでいない。現在の避難場所の見直しが必要と思われる。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	海岸付近は高潮になると広範囲に水没していると聞いてとても怖い。防波堤、防潮堤の整備は進んでいないように感じる。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	私は内陸部に仮住まいしていますので特に進んでいる気がしない。以前、住んでいた町（防潮堤）がかなり遅くなるようですが早期完成を望みます。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	前回と同様変わらず。平地へ下りても相変わらず海が直接見えているので（堤防がまだ復旧途中）2～3mの津波でも怖い。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸北部	前回からの変化がないため。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸北部	海岸付近のトンネルはまだ電気がつかないところが多く、また防潮堤の整備もされず、特に夜通る時は怖いです。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸北部	新たに防潮堤を造り、高台移転した旧市街地をどう活用するかを小中高生を巻き込んだ計画作りが進められている。取組が進んでいる方だとは思いますが、現在はまだ何もできていないわけです。決めたならすぐ動き出してほしい。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸北部	見に行っていないが、防潮堤は崩れたまま順番がおかしいとの意見がありました。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸北部	近隣市町村でも仮設住宅に居住している方々は高台に住んでいます。津波が自宅の数メートル手前で止まりかろうじて被害を受けなくて済んだ方々は、今現在も自宅に住んでいます。完全に防波堤が復元するとは思わないので、万が一また津波が襲ってきたらと不安を抱いているのではと思います。復興予算や建設事業等、多くの問題があるとは思いますが、元の防潮堤の高さまで急ピッチで第一段階は復旧させ、地域住民が安心して住める街づくりを行ってほしい。また、中核医療施設に繋がる道路の整備に関しては急務と思っていますが、最重要道路として早期着工を実施してほしいです。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	地盤沈下により、かつて居住地だったところまで海水が入り込んでくるのを見ると、やはり恐怖を感じる。防波堤等も必要だが、津波の恐ろしさを後世に伝えるものを残すべきだ。この災害を風化させないことも「安全なまちづくり」に繋がる。
教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	防潮堤の計画はあるようですが、進んでいません。大雨が降れば道路の冠水等で登下校、通勤の心配が先日もありました。海がとても近くに感じます。大丈夫なのでしょうが。	

あまり達成していない	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	堤防がまだ倒れたまま。ガードレールが落ちたままの道路がまだある。国道でないところにまだまだ手が届いていない。同じような津波が来たら、今の状態ではまた被害が出る。復興のための資金が的外れなことに使われていることには憤りを感じる。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸北部	県北地域は今回は大打撃を受けなかったように思いますが、潮の流れにより県南地域と同様な被災も考えられるのではないのでしょうか。化学的にも分析し、市街地を最も安全な地区に移転することが必要だと思います。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	一番心配なのは住民の災害に対する危機意識だ。津波が想定される地区での防災訓練への参加はよいとしても、やや内陸部の住民の防災訓練への参加率はかなり低い。訓練への参加自体があらゆる災害への備えとなっているという意識を喚起する必要があると思う。
達成していない	地域団体・郵便局関連	10歳代	沿岸南部	大潮のたびに道が海のようになっている。またそれは基本的に午後からなので暗くなるのが早まってきている現在はすごく危険である。復興住宅の着工などは進んできているが、その住宅を守る環境を確保できていないので、それを最優先すべきと感じる。
	地域団体・郵便局関連	20歳代	沿岸南部	高台移転の問題もあまり具体的に進んでいないように感じる。生活している高齢者等のことを考えると早期解決を望みたい。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸北部	堤防の復旧、新設等が未着工。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	前に回答したのと違う回答になっていると思います。少しずつは進んでいるのですが、目に見える形という点で言えば、進んでいないような気がします。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	何をもって災害に強いまちづくりが達成できたのかというところはあります。海岸の防波堤等の完成はまだ先の話なので今は達成できていないのかなと思います。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	目に見えるものは何も進んでいない。時がたつにつれて何も進まなければ住民はやる気をなくすし、諦めると思います。
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸北部	防潮堤の整備をする前に集団移転の高台整備が先決である為、進んでいないのではないかと思います。日々残された海沿いに住んでいる住民は心配で生活している状況である。
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸南部	役所の建設予定地を浸水地域に考えているようでは安全は守れないと思う。
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸南部	防潮堤は全く進んでいない。流された道路の護岸を復旧しているだけ。
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸南部	人工の構造物による防災は無理があると考えます。今回の災害に対する教訓がまったく活かされていない。
地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸南部	災害危険区域の設定を進めているようですが、県の方で行ったシミュレーション（津波浸水区域）が出されると思いますが、シミュレーションの精度が高くないと思われます。3.11で津波が来なかった場所にも浸水地域となっているところがあり、今後説明会を開催していくと思いますが、きちんと住民に説明してもらいたいと思います。シミュレーションだけでなく実際に現地に足を運んで現場を見てシミュレーションとすり合わせをしてください。	

達成していない	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸北部	海の近くに住んでいますが、津波で壊れた防波堤は全く工事が進まず、木々もなぎ倒されて海が近く感じます。あの時を思うと不安な毎日です。
	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸南部	全体的に何も進んでいないので街づくりになっていない！災害に強い街づくりもいいが、早く被災地の住宅整備が進められるような対策をしてほしい。被災から2年が経過しようとしている。確か2年で住宅整備できると国、県、市等で公約したと思っている。これから更に2年経過させるのか。住宅整備→街づくり→安全住みよい街になるのではないか。公共の施設は後々でもいい。まずは住宅対策だと思う。人口の減少にもなるのではないか。
	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸南部	まだまだ整備できていません。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	前回（8月調査）の時と状況が変わっていない。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	復興計画では示されているが、工事が開始されておらず、現況で防災対策は見られない。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	防潮堤の整備には時間がかかると思いますが、せめて避難路だけでも早急に整備すべきと思う。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	防潮堤のかさ上げや、二線堤道路のかさ上げは計画ができ、地権者や地域住民への説明、起工承諾契約の取り交わし等の段階であり、整備や工事に着工している段階ではないので実感としては進んでいないと感じる。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	復興まちづくり事業の審議検討会等の過程を経て都市計画（9/24大臣同意）はできましたが、どこまでも計画書としての進展であり、実感としては感じられないのが正直なところです。特に私達の町の中心部には左右2本の川が流れており、各河口に14.5m高の水門並びに防潮堤を築城する計画ですが、地籍調査もまだ未完であり、登記簿上に土地認定を可とし簡素化、スピード化を計ろうとしています。国政も定まらない昨今、計画変更を余儀なくさせるようなことにでもなると、町そのものが消滅しかねません。仮役場は完成を見ましたが、公共的な施設及び施設地の目算が立っておりません。（例 町立小中学校、県立病院、交番、郵便局、銀行等金融機関、JR線の有無）
	地域団体・郵便局関連	70歳代	沿岸南部	まるで失業対策事業のようには見えません。働く方達の声も失業事業並み。特に土木その他。
	産業・経済・雇用関連	30歳代	沿岸南部	道路の復旧は行われているが、防潮堤の整備や避難方策の充実はしていない。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	防波堤は壊れたまま。水門も壊れたまま。かさ上げは終わらない。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	防潮堤は壊れたままなのに車の交通量は増えた。さらに地盤沈下が進んでいるように思える。我々の予算を削る前に国会議員の収入を削っていろいろな議員特例もなくすべきだ。
産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	防潮堤の整備が全く進んでいない。	

達成していない	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	見えない所で行っていると思うが、計画している防潮堤等の建物が見当たらない。未だ高潮や満潮時には地盤沈下したため、街中に海水が流れ込み水没する道路等があります。隆起や沈下した道路も未整備状態です。建物の解体や基礎の撤去は進んでいます。被災地域（浸水地域）に住居を修繕して生活している人は被害防止対策がまだ施されていないため、津波の心配を抱きながら生活しています。非常に不安な気持ちで毎日生活しています。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	岸壁の工事は多少進んでいるが、場所は手がついていない。このままだと高潮の時、津波の時は倒れた堤防を越えてくる。工事の順序を考えた方が…。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	防波堤、防潮堤、防潮林等、一切着工されていない。その計画すら説明がない。また住民に示されていない。
	産業・経済・雇用関連	60歳代	沿岸南部	防潮堤の整備はまだ始まっていません。まわりは被災前と同じです。船揚場だけの工事です。船を安心して係留できる港、船が傷つかない船揚場の整備をお願いします。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸北部	壊れた防潮堤がなおっていない。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸北部	まだまだガレキの処理が大変で進んでいないようです。防潮堤も壊れたままで波が高い日には心配になります。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	まだ災害の後片付けをしている状況なので、まちづくりは先のことだと感じる。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	防潮堤が完成していないから。避難路の整備をしようとしているが完成していないから。災害に強い安全なまちづくりと言いながら被災した土地に役所を建設しようとしているから。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸北部	前回と同様以下のとおりである。住民生活に欠かせない生活道路は震災時のままほとんど手がつけられていない。達成感については、残念だがほとんどない。防災計画は策定されているようだが、どの程度進んでいるかその状況がわからない。介護弱者を収容する施設にしても、地域全体としてどう連携すればよいのか、このままただじっとしておれというのか。方向性が示されないため不安である。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	防災計画が未定となっている。さらに避難所になる学校と地域とのつながりを作りたいが、町や地域の動きがなく不安である。次に何か起きたらどうなるか心配でならない。
教育・福祉施設関連	60歳代	沿岸南部	住んでいる地域は浸水域にしか車が走れる道路がない。安心して走行できる高台への道路を早い段階で作るべきだと思う。	
未回答	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸北部	防災計画案ができたが、それを実行するのがいつになるのか先が見えない。もっとスピーディな国、県、市町村の連携を望みます。

**【自由意見掲載上の注意】**

- ①記載内容については表現も含めて原則として原文のまま掲載しています。  
(誤字、脱字は修正をしています。また、企業団体、個人等の名称は置き換えています。)
- ②自由記載については、本人の掲載の了解を取ったものだけを掲載しています。